

第1学年 生活科 学習指導案

日 時 令和7年10月30日 5校時

13:30～14:15

対 象 第1学年1組 25名

指導者 主幹教諭 関澤 英昭

1 単元名 「あきとなかよし～みんながたのしめるおもちゃをかんがえよう～」(18時間扱い)

2 単元目標

○秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋へと移り変わる季節の変化に気付いたり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりすることができる。【知識及び技能】

○秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やその他の季節との違いを見付けたり、比べたり、感じたりする中で、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に興味をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋へと移り変わる季節の変化に気付いている。	①秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やその他の季節との違いを見付けたり、比べたり、感じたりしている。	①問題の発見や解決に向かって、自分のモチ味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。
②秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いている。	②秋の自然と関わる活動を通して、自然物の特徴を生かした遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。	②秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に興味をもち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしている。
		③秋の自然と関わる活動を通して、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

本単元は、学習指導要領解説生活編の内容(5)「季節の変化と生活」及び(6)「自然や物を使った遊び」に基づいて学習を進める。児童は、これまで学校や家庭での生活経験の中で公園などへ出向き、様々な活動を通して、自然に興味・関心を抱いている。本来は秋になると、校庭や遊び場から虫の声が聞こえたり、秋らしい草花や雲が見られたりするようになる。しかし、本校の周りには豊かな自然が少なく、季節の移り変わりを十分に感じる場がない場所もある。その上、最近の児童の遊びは、室内遊びや遊具、ボールを使った遊びが多く、自然物を使って遊んだり、それらを活用しておもちゃをつくったりする機会が減っている。

本単元では、秋の自然の中へ児童を誘い、思う存分自然に浸らせ、友達と工夫しながら遊ぶ楽しさを味わわせたい。そこで、他学年や地域の方、未就学児を対象とした「だれもが楽しめる秋祭り」を開くことを単元のゴールに設定して、どんな秋祭りにしたいかを学級全体で話し合い、目的意識をもたせることで、より主体的に探究したり、課題解決に対して更に意欲的に取り組んだり、児童が本来もっているモチ味を生かすことができると考えた。

公園などの学校外へ出掛ける際には、秋の動植物を観察したり、草花、色付いた木の実や落ち葉、つるなどを使ってその場で簡単な遊びをしたりするなど、現地での活動を大切にしたい。なお、公共の場では、幼児や高齢者など他の利用者にも配慮できるように指導する。

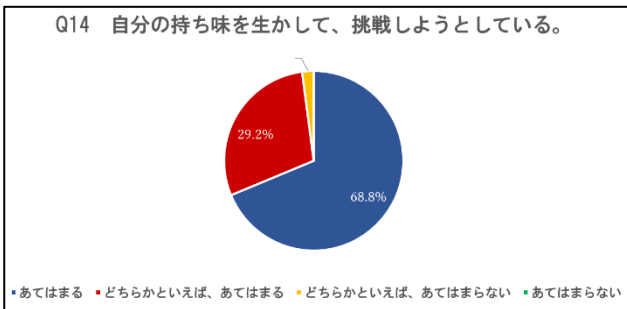
(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がモチ味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

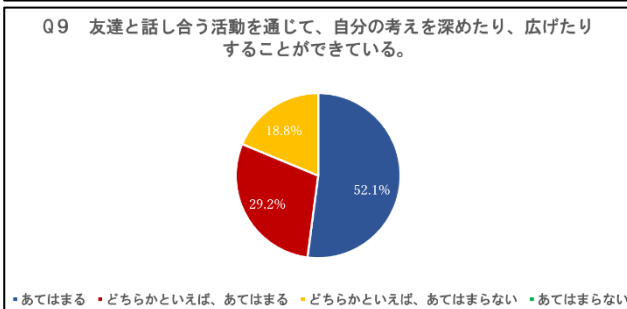
5 児童の実態

1学期の「いくぞ どうほ たんけんたい」や「なつとなかよし」の学習では、1年生ならではの疑問や願いなど、それぞれの思いを抱くことができた。それらを友達と協力して解決する楽しさを味わい、自分の願いを実現する喜びを実感することができた。さらに、色水を混ぜて新しい色をつかったり、シャボン玉の大きさや飛ばし方を比べたりと、自分たちで考えた遊びを友達と共有しながら活動を深めることもできた。こうした体験は、児童に「自分で考える」、「試してみる」、「友達と一緒に楽しむ」という学びの姿勢を育むことができた。その一方で、まだまだ自分中心に物事を考えて進める傾向が強く、他者に対する興味・関心が弱いことが課題として残る。

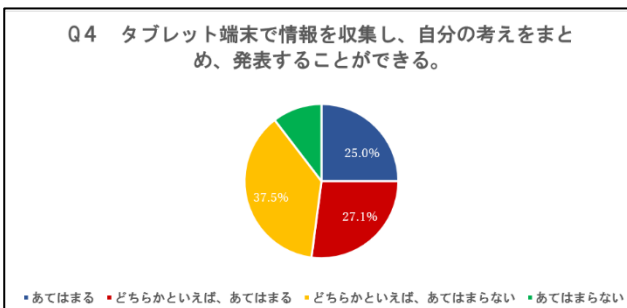
2学期の本単元の学習では、学習の最終ゴールを「だれもが楽しめる 秋祭り」と設定し、児童が「どうしたら楽しいお祭りになるのか」、「どんな工夫をすればみんなで楽しくすごせるか」という目的意識をもって、自分たちで考えたアイデアを形にできるようにしたいと考えている。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分の持ち味を生かして挑戦すること」について、約98%の児童ができていると感じている。児童の「やりたい」、「楽しませたい」という思いを大切にしたいカリキュラム・デザインをすることで、児童の挑戦を支援していく。



協働的な学びについて約81%の児童がよさを実感している。友達との意見交換の時間を設定し、多様な考えに触れ、自分の考えに生かすことができるようにする。自己選択・自己決定をさせる個人での活動と、考えを説明し合うペアでの活動を分け、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は、約52%にとどまっている。タブレット端末の活用を始めたばかりであることが起因している。学習を振り返る場面などで活用させることを通して、タブレット端末の活用を増やし、学び方の幅を広げていくようにする。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

自らの学習を振り返って学習状況を把握したり、他者と協働的に学んだりする活動を通して、問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

7 創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

全ての児童が活動への見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、現在の学習の進捗状況を矢印などで示すようにする。

(2) ICT等の活用

他者の考えからヒントを得ることができるようにするために、タブレット端末等を活用して考えを交流させる。

(3) 振り返りの充実

児童に学びに向かう力を涵養するために、発達の段階に応じた振り返りの視点を明確にする。低学年では、主に自分自身のことを振り返ることができるようにする。例えば、できるようになったことや、分かったこと、頑張ったこと、次にやってみたいことについて振り返らせる。

8 指導計画

時	学習過程	<p>○主な学習活動</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>	<p>◆評価規準</p> <p>【観点】(方法)</p>
1 ～ 2	<p>【わくわく】 どんなきせつかな？ 【あきは</p>	<p>○幼稚園、保育園での経験から、知っている秋を伝え合う。</p> <p>○食べ物や虫、植物など、まだ知らない秋について調べ、秋と夏との季節の違いなど、秋の知識を深める。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 まだ知らない秋を調べることができるようにするために、教科書や本、図鑑、タブレット端末を活用する。</p> <p>○見つけた秋をオクリンクプラスで友達と交流する。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 友達と意見交換をし、自らの考えを深められるようにする。</p>	<p>【知】① (発言、観察)</p> <p>【思】① (発言、記述)</p> <p>【主】① (発言、観察)</p>
3 ～ 13	<p>【いきいき】 あきと なかよくあそぼう</p>	<p>○諸感覚を意識して、秋の自然物を使って、秋と仲よしになる方法を考える。</p> <p>○秋と仲よくなるための話合いを基にして、生活科見学に必要な材料を集めるための計画を立てる。</p> <p>○生活科見学で公園へ行き、秋の自然物を直接感じたり、秋めいたものをたくさん集めたりする。</p> <p>○生活科見学で集めた自然物を用いて、諸感覚を使うことを意識した楽しみ方を探す。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 諸感覚を使う楽しみ方を協働的に粘り強く話し合えるようにするために、秋めいた物を提示する。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 児童が次にやるべき課題を発見することができるように、本時の学習を振り返り、児童の学習状況を把握して指導する。</p> <p>○それぞれに見つけた楽しみ方を友達と共有する。</p> <p>○見つけた楽しみ方を紹介して、もっと楽しめる方法がないか改良しながら、友達と一緒に楽しむ。</p>	<p>【知】①② (発言、観察)</p> <p>【思】①② (発言、観察)</p> <p>【主】①③ (発言、観察)</p>
14 ～ 18	<p>【ぐんぐん】 あきのあそびをひろめよう</p>	<p>○「秋祭り」を開く準備をする。</p> <p>○「だれもが楽しめる秋祭り」をめあてに掲げて、めあてを達成するためにどんな内容や必要な役割等を考え、意見を出し合う。</p> <p>○招待する対象を絞り、招待する人の気持ちを想像しながら、諸感覚を使って、だれもが楽しめる活動に絞り、ルールや約束を工夫したりして「秋祭り」を開くことができるようにする。</p> <p>○それぞれの役割に分かれて、「秋祭り」の準備を行う。</p> <p>○学年で「秋祭り」のリハーサルを開き、「だれもが楽しめる秋祭り」になっているかを考える。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 友達と意見交換をさせて、道具やルール、決まりなどにおける改善の必要性や改善策について話し合わせる。</p> <p>○「秋祭り」を開催し、秋の自然物を使った活動を招待した人と一緒に秋の楽しさを共有する。</p> <p>○これまでの活動を振り返り、秋の思い出や、秋の自然と自分との関わりなどについて伝え合う。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【知】② (発言、観察)</p> <p>【思】② (発言、観察)</p> <p>【主】①②③ (発言、観察)</p>

9 本時の指導（全 18 時間中の第 14 時）

(1) 目標

招待される人の気持ちを想像しながら、お客さんが諸感覚を使って楽しめる「秋祭り」になるように、内容やルールを考えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

	<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>
導入	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を使って、秋を楽しんだ。 ・夏と秋で季節の音の違いを見付けて楽しんだ。 ・夏と秋で季節の匂いの違いを見付けて楽しんだ。 ・秋の自然物の特徴を生かして、動物や落ち葉アートを作って楽しんだ。 ・秋の自然物の転がる特徴を生かして、ボウリングをして楽しんだ。 	<p>※前時までの学習内容を想起しやすくするために、「夏と秋の違い」、「秋ならではの物」、「諸感覚に触れて楽しむ活動」などの学習の足跡を教室や廊下に掲示する。</p>
	<p>誰もが楽しめる「秋祭り」の内容を考えよう。</p>	
展開	<p>○秋祭りで行きたい活動を個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりごま ・落ち葉アート ・虫の鳴き声クイズ ・秋と夏の匂いの違い <p>○ペアで活動を選んだ理由と、どの感覚を使う活動なのかを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の物を使って福笑いをしたい。 →「触れる」という感覚だけでなく、「見る」という感覚も使うよ。 <p>○学級全体で行きたい活動が、どの感覚器官を使った活動があるかを確認する。</p>	<p>★これまでの活動から選んでも、それらを組み合わせても、新たな活動を生み出してもよしとすることで、自己選択・自己決定できるようにする。 【指導の手だて(1)】</p> <p>※ワークシートに書いた活動が、秋と仲よくなっているか、どの感覚器官を使う活動かを記入するようにする。これまで同様に諸感覚アイコンシール(視・聴・嗅・味・触の5つの感覚)を貼るようにする。</p> <p>※これまで児童が考えた「秋と仲よくなる題材」が置かれたコーナーを設け、手に取って考えられるようにする。</p> <p>★児童が協働しながら新たな視点に気付けるようにするために、行きたい活動がどの感覚器官を使った活動になるかをペアの友達に伝える話型を示す。 【指導の手だて(1)】</p> <p>※活動の中で複数の感覚器官を使う活動も考えられる。その際は、諸感覚アイコンシールを追加で貼るようにする。</p> <p>※行きたい活動が書かれたカードを感覚器官別に貼り分けることで、学級の傾向を視覚的に捉えやすくする。</p> <p>◆自然物の特徴を生かした遊びや遊びの内容やルールを考えている。【思】②(発言、観察)</p>
振り返り	<p>○オクリンクプラスを使って、本時の学習を振り返る。</p> <p>①誰もが楽しめる秋祭りに近づけることができたか。</p> <p>②友達の「いいネ」を見付けられているか。</p> <p>③友達の助言から新たに考えを深めることができたか。</p>	<p>★本時の学習を振り返り、現状を把握し、次時につながる学習となるように、来てくれるお客さんが諸感覚を使ってブースを回り、秋を楽しめる「秋祭り」にすることを確認する。 【指導の手だて(2)、(3)】</p> <p>※振り返りでは、○を付ける方法にすることで、多くの児童が振り返り活動を時間内に終わることができるようにする。</p> <p>※友達の助言を生かして、考えを深めることができた児童を紹介する。</p>

第2学年 生活科 学習指導案

日 時 令和7年10月30日5校時

13:30~14:15

対 象 第2学年2組 20名

指導者 教諭 小早川 湧万

1 単元名 「とびだせ！町たんけん～自分の町のよさを伝えよう～」(25時間扱い)

2 単元目標

- 町の様々な場所を探検し、町の人と関わりを深める活動を通して、町のよさや人の思いに気付いたり、自分たちの生活は様々な人や思いが関わっていたりすることが分かる。 【知識及び技能】
- 町の様々な場所を探検する活動を通して、町の人との関わりを深め、自分の町の場所や人のよさについて考えている。 【思考力、判断力、表現力等】
- 町の様々な場所を探検し、町の人との関わりを深める活動を通して、場所や人に親しみや愛着をもって適切に接し、安全に生活しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①町の様々な場所を探検する活動を通して、自分の町には様々な人が関わっていることに気づき、町のよさや町の人々の思いを理解している。	①町の様々な場所を探検する活動を通して、町で働いている人や生活している人について考え、公共物や公共施設についての働きを捉えている。	①問題の発見や解決に向かって、自分のモチベーションを生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。 ②町の様々な場所を探検し、町の人との関わりを深める活動を通して、自分の町や人へ愛着をもち、安全に生活しようとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

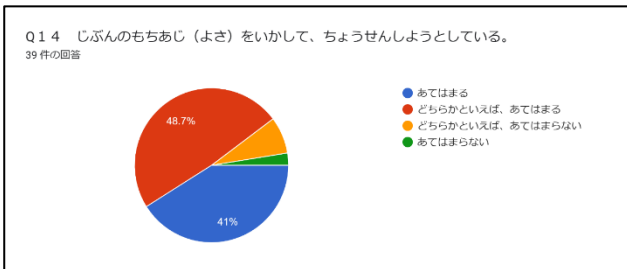
本単元は、学習指導要領解説生活編の内容(3)「地域と生活」及び(4)「公共物や公共施設の利用」に基づいて、自分たちが生活する地域に出掛け、そこで生活したり働いたりしている人々と接したり、様々な場所を調べたり利用したりすることを通して、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることを理解し、地域に親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにすることを学習する。本校の隣には大田区立蒲田図書館があり、本校の児童は、日頃から保護者と本を借りに行ったり、友達と宿題をしに行ったりしているため、児童にとっては馴染み深い場所となっている。そこで、町探検のきっかけとして蒲田図書館での見学とインタビューを行う。その後、更に広げて地域のことをもっと知るために町探検をすることにつなげていく。

(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

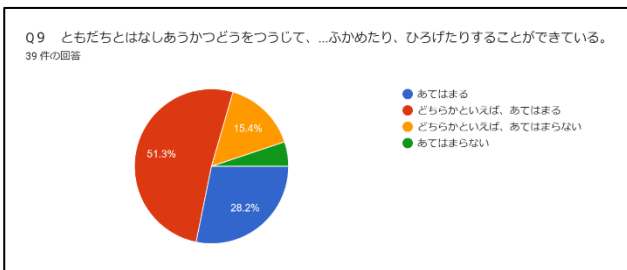
地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

5 児童の実態

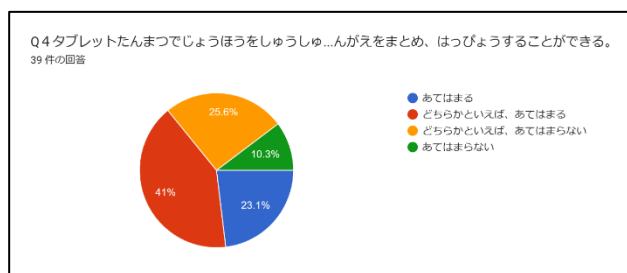
児童は、タブレット端末の使い方について習得中ではあるものの、1学期から生活科での野菜の観察等でタブレット端末を積極的に活用しており、分かったことや気付いたことをカードに書くということには前向きに取り組む児童が多い。一方で、学習のまとめにおいて、相手意識をもって主体的に取り組むことが苦手である児童が多い。本単元では、児童が住む地域にどんな場所やものあったり、人がいたりするのか改めて細かく考え、児童たちの生活にいろいろな人や場所が関わっていることを指導していく。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分のもち味を生かして挑戦する」ことについて、約90%の児童ができていると感じている。本単元でも、活動途中に他者参照と相互評価を組み合わせた時間を設けることで、前向きに挑戦できるように支援していく。



協働的な学びについて約80%の児童がよきを実感している。本単元でも、考えや気付きを交流させる場面を設定し、多様な考えに触れ、自分の考えに生かすことができるようにする。個別に考えたことを交流し合う学習過程とすることで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は、約64%にとどまっている。学び方の習得については途上であると感じている傾向が見られる。本単元では、学習を振り返る場面で活用させることで、学び方の幅を広げていくようにする。【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

自らが住む地域を探検して、場所やものを発見し、人と関わる活動を通して、問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよきを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

7 創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

全ての児童が活動への見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、現在の学習の進捗状況を矢印などで示すようにする。

(2) ICT等の活用

自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童にタブレット端末等で他者の考えを見るように指導する。

(3) 振り返りの充実

学習に前向きに取り組むための振り返りができるように、活動途中で他者参照と相互評価を組み合わせた時間を設ける。

8 指導計画

時	学習過程	<p>○主な学習活動</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>	<p>◆評価規準</p> <p>【観点】(方法)</p>
1 ～ 13 (本時)	<p>【わくわく】何を聞こうかな</p> <p>【町にはどんな人がいるのかな】</p>	<p>○地域のことに関するアンケートを行う。</p> <p>○地域のことについて学習する見通しを立て、地域にどんな場所や店があるか地図を見ながら、知っていることなどを挙げる。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】</p> <p>全ての児童が活動への見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、現在の学習の進捗状況を矢印などで示すようにする。</p> <p>○学校の周りを探検する。(上ルート、下ルート)</p> <p>○学校の周りに何があったか学級で共有する。</p> <p>○地域のことを知るために、気になった場所や店を挙げる。</p> <p>○一番近くの公共施設である蒲田図書館に行くに当たっての質問を考える。</p> <p>○マナー、見学の仕方を確認し、蒲田図書館へ見学に行く。</p> <p>○蒲田図書館の見学で分かったことを、オクリンクプラスを使ってまとめ、共有する。</p> <p>○つくったオクリンクプラスのカードを基に、公共施設としての図書館ということを踏まえて、お気に入りの場所をどんな人におすすめできるか考える。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p> <p>学習に前向きに取り組むための振り返りができるように、活動途中で他者参照と相互評価を組み合わせた時間を設ける。</p> <p>○お礼の手紙を書く。</p>	<p>【思】① (ワークシート、発言)</p> <p>【主】① (ワークシート、振り返り、話合いの観察)</p>
14 ～ 18	<p>【いきいき】話したいな</p> <p>【もつと聞いて】</p>	<p>○見学したい場所やお店のグループを決める。(学年)</p> <p>○見学したい場所やお店でもっと知りたいことや聞きたいことをまとめる。</p> <p>○グループごとに地域の場所やお店を探検する。(2回目)</p> <p>○探検で分かったことや気付いたことを略地図にまとめる。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p> <p>自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童に他者の考えを見せる場面を設定する。</p>	<p>【知】① (ワークシート、発言)</p> <p>【主】① (話合いの観察)</p> <p>【主】② (ワークシート、発言、行動観察)</p>
19 ～ 25	<p>【ぐんぐん】を発見したこと</p> <p>【を伝えよう】</p>	<p>○2回の探検で分かった町の「すてき」を、かるたにする。</p> <p>○作ったかるたで遊ぶ。</p> <p>○学習の振り返りを行う。</p> <p>○お礼の手紙を書く。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【主】② (発表、成果物)</p>

9 本時の指導（全 25 時間中第 13 時）

(1) 目標

蒲田図書館の様子から、公共施設で働く人が、蒲田図書館を訪れる多様な利用者のために工夫していることに気付き、友達に伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点 ★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて
導 入	○蒲田図書館見学の写真を提示して、前時までの活動を思い出させる。 ○めあてを確認する。	※児童のタブレット端末に、事前に蒲田図書館を見学した写真を送り、個人でも見るができるようにする。 ※蒲田図書館の素敵だと思ったところやすごいと思ったところを個人でまとめたカードを、学級全体で1枚の「いいネマップ」にまとめるという学習のゴールを確かめることで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
蒲田図書館の「いいネマップ」を作ろう！		
展 開	○蒲田図書館の素敵だと思ったところやすごいと思ったところをオクリンクプラスでまとめたカードを見ながら、本時の流れを確認する。 ○オクリンクプラスのカードに、蒲田図書館見学で撮った写真を貼る。 ・カードの文章に合う写真を選ぼう。 ・お気に入り場所の様子がよく伝わるような写真を選ぼう。 ○提出されたオクリンクプラスのカードを児童同士で見合って素敵だと思うカードを見付け、どんな人に勧めるかという視点でカードを選び、選んだ理由を発表する。 ・椅子があったから高齢者にお勧めします。 ・絵本があったからこどもにお勧めします。 ・勉強できる場所があったから、勉強したい人にお勧めします。	★全ての児童が活動への見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、現在の学習の進捗状況を矢印などで示すようにする。 【指導の手だて（1）】 ★自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童に他者の考えを見せる。 【指導の手だて（2）】 ★学習に前向きに取り組むための振り返りができるように、活動途中で他者参照と相互評価を組み合わせた時間を設ける。 【指導の手だて（3）】 ※話型や聞き方の見本を黒板に掲示することで、話し合う活動が活発に行われるようにする。 ◆蒲田図書館の様子から、公共施設で働く人が蒲田図書館を訪れる多様な利用者のために工夫していることに気付き、友達に伝えている。 【思】①（ワークシート、話合いの観察）
振 返 り	○タブレット端末で、本時の振り返りを行う。 ○振り返ったことを全体で共有し、フィードバックを行う。	※振り返りを行う前にめあての確認をすることで、本時のめあてと照らし合わせながら学習を振り返ることができるようにする。

第3学年 特別の教科 道徳 学習指導案

日 時 令和7年10月30日5校時

13:30~14:15

対 象 第3学年1組 35名

指導者 教諭 鵜木 祥

1 主題名 「こまっている人がいたら」【内容項目 B（6）親切、思いやり】

2 ねらいと教材

ねらい 相手の状況や気持ちなどを考えて、相手を思いやり、すすんで親切にしようとする実践意欲を育てる。

教材名 「親切がいっぱい」(光村図書「どうとく3 きみがいちばんひかるとき」)

3 主題設定の理由

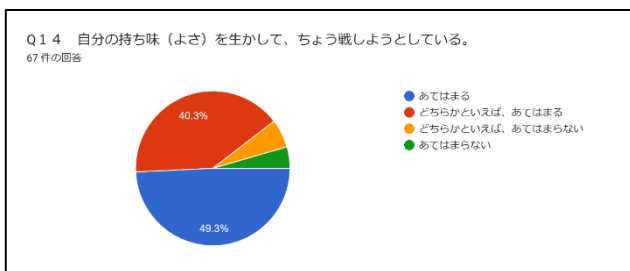
(1) ねらいとする道徳的価値

本主題は、学習指導要領解説特別の教科 道徳編の内容項目B（6）「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」に基づいて設定した。

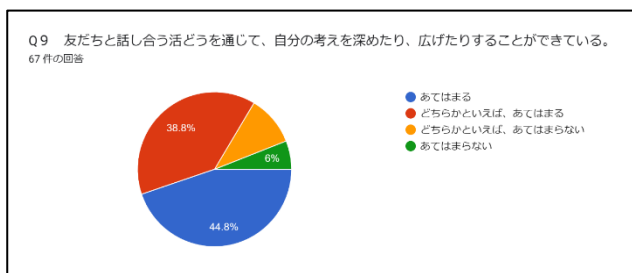
社会生活をする上で、思いやりの心を持ち、親切にすることとは、望ましい人間関係を築く基礎になる。相手の立場や気持ちを十分に理解し、人格を尊重しながら困っている人を援助できることが真の思いやりであり、親切であるということを理解させていく。親切にすることに大切なことは何かを考えることを通して、自分だけが良いことをしたという自己満足で終わるのではなく、相手の気持ちを自分のこととして想像し、推し量りながら、相手のことを親身になって考えることができるように日々指導している。

(2) 児童の実態

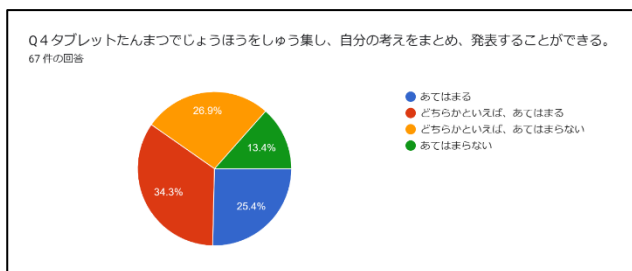
日頃の生活の中で、友達が困っていることに気付くと、友達に声を掛けたり、分からないところを互いに教え合ったりすることもできる。しかし、まだまだ自己中心的な考えが多く、相手も自分と同じ考え方や感じ方であると思い込んでしまい、十分に相手を思いやって行動できないことも多い。そこで、今回の授業は、深化を意図し、自分たちの周りには体の不自由な人や小さな子どもなど様々な人がいることに気付き、相手のことを考えて行動することのよさについて考えさせたい。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分の持ち味を生かして挑戦すること」について、約89%の児童ができていていると感じている。よい考えや発言を教員が肯定的、前向きに価値付けることを通して、児童のよさや持ち味に気付かせるようにする。



協働的な学びについて約83%の児童がよさを実感している。本題材でも、考えを交流させる場面を設定し、多様な考えに触れ、他者の考えからヒントを得ることができるようにする。友達の意見を聞いた後に再検討する時間を設けることで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は、約59%にとどまっている。学び方の習得については途上であると感じている傾向が見られる。本題材では、友達と考えを交流させる場面で活用させることで、学び方の幅を広げていくようにする。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

(3) 教材の活用について

本教材は、あえて文字ではなく、絵を中心としたものである。町の様子絵の中に、たくさんの親切な行動が描かれている。この教材の特質を生かして、あらゆる場面で親切な行いをする時の感じ方や考え方を捉え、親切について考えることを通して、人それぞれ困っていることが違うことやみんなで助け合って生活していることに気付かせていきたい。

4 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

5 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

本当の親切、思いやりとは何かと考える活動を通して、問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

6 創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

言語表出が難しい児童が学習活動に取り組みやすくするために、教員が考えを代弁したり、言語化したりして、モデリングを示す。

(2) ICT等の活用

他者の考えを知って、自分の考え方を深めることができるようにするために、タブレット端末等を活用して考えを交流させる。

(3) 振り返りの充実

自分のよさやもち味に気付かせるようにするために、児童の振り返りに対して教員が肯定的、前向きに価値付ける。

7 学習指導過程

	○主な学習活動 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	◆評価規準（方法） ※指導上の留意点 ★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて
導 入	○「親切劇場」を見る。 ○本時のめあてを知る。	※教材の場面を教員が動作化した「親切劇場」を見せ、劇の中にどこに親切があるか考えさせる。
	親切をする人とされる人の両方がうれしくなるのはどんなときでしょうか。	
展 開	○人が困っている場面を想像して、どんな気持ちで行動しているかを考える。 ・助けてあげている。そして、声を掛けてあげている。 ・勇気がないから声を掛けないかもしれないけど、がんばって声を掛けたい気持ちもある。 ・ハンカチを拾ってあげている。どうぞという気持ち。 ・荷物が多い人は大変だから、持つのを手伝ってあげている。大変ですねという気持ち。 ◎相手のことを十分に思いやって行動したことはありますか。それはどんなことですか。 ・仲間に入った友達に声を掛けてあげた。 ・けがをした友達を保健室に連れて行ってあげた。 ○書いたことをグループや全体で共有する。 ○友達の意見を聞いて、考えたことをもう一度オクリンクプラスに記入する。	★言語表出が難しい児童が学習活動に取り組みやすくするために、教員が考えを代弁したり、言語化したりして、モデリングを示す。 【指導の手だて（1）】 ★他者の考えからヒントを得ることができるようにするために、タブレット端末等を活用して考えを交流する場を設定する。 【指導の手だて（2）】 ※考えをオクリンクプラスに記入させる。 ※友達の考えを書くときは違う色でオクリンクプラスに書くように指導をする。 ◆親切をする人、される人両者が嬉しくなるにはどうすればよいかについて、相手の状況や気持ちなどを考えて、相手を思いやり、すすんで親切にすることのよさについて考えている。（記述）
振 返 り	○本時のめあての振り返りをオクリンクプラスに記入する。 ○クラスの親切を教員が提示し、学級全体で、今日の学習を振り返る。	★自分のよさやもち味に気付かせるようにするために、児童の振り返りに対して教員が肯定的、前向きに価値付ける。 【指導の手だて（3）】

第4学年 国語科 学習指導案

日 時 令和7年10月30日 5校時

13:30~14:15

対 象 第4学年2組 19名

指導者 教諭 西田 恵美菜

1 単元名 「工芸品のみりよくを伝えよう」(12時間扱い)

2 単元目標

○事典の使い方を理解し使うことができる。

【知識及び技能】

○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する。

【思考力、判断力、表現力等】

○中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことにすすんで取り組む。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事典の使い方を理解して使っている。 ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 【B書くこと(1)ウ】 ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 【C読むこと(1)ウ】	①問題の発見や解決に向かって、自分のもち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。 ②中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをすすんで書こうとしている。

4 単元について

(1) 指導内容

本単元は、学習指導要領解説国語編の内容(2)情報の扱い方に関する事項に基づいて、考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について注目し、各内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えるように学習を進める。その中で、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を考えるように指導する。また、学習の中で、相手を意識した表現を身に付けさせたい。そのために、伝えたいことがよく伝わるように、相手のことを踏まえて理解しやすい事例を選び、知らないことについては丁寧に理由付けをしていくよう指導する。

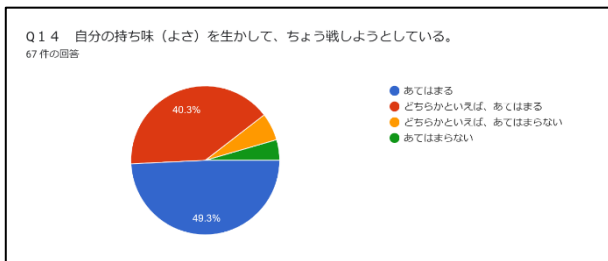
そして調べる際には、百科事典や図鑑、書籍、資料などから、必要な知識や情報を得ることで、使い方や有効性を実感させる。

(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

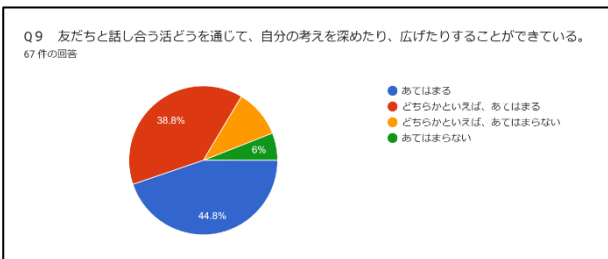
地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

5 児童の実態

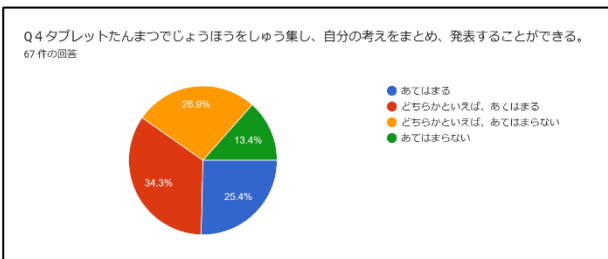
本学級の児童は、対象者を明確にし、新聞やポスターを作成してきた。割り付けや文字の大きさ、写真と文の関係などを工夫し取り組むことができた。また第4学年「要約するとき」の学習では、重要な言葉や文を見付けて要約し、文章の内容について自分の考えを書く学習を行ってきた。本単元では、これらの知識・技能等を組み合わせて考えさせていく。そのために、リーフレットのよさを見付け、レイアウトを考え、事典やインターネット記事から書きたい記事を踏襲し、要約した文章を書き完成を目指すように、段階ごとに丁寧に指導していく。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分のもち味を生かして挑戦する」ことについて、約89%の児童ができていると感じている。段階的な丁寧な指導を通して、児童の挑戦を支援していく。



協働的な学びについて約83%の児童がよさを実感している。本単元でも、友達の考えを参考にしながら、自己選択・自己決定をさせる学習場面を設定することで、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は、約59%にとどまっている。学びに向かう力は高いが、学び方の習慣が伴っていない傾向がある。インターネット記事から情報収集に加え、考えを交流するツールとして活用させることで、学び方の幅を広げていくようにする。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

リーフレットで表すよさを知り、まとめごとに中心となる語や文を確かめ要約する活動を通して、問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

7 創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

児童が学習のめあてを自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして多様な選択肢を用意する。

(2) ICT等の活用

他者の考えからヒントを得ることができるようにするために、タブレット端末等を活用して考えを交流する場面を設定する。

(3) 振り返りの充実

学習を振り返りやすくし、学習への達成感の充実を図るために、具体的なめあてを提示し、学習のゴールを明確にする。

8 指導計画

時	学習過程		◆評価規準 【観点】(方法)
1	知る・読む	<p>○主な学習活動</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>	◆評価規準 【観点】(方法)
1	知る・読む	<p>○伝統工芸について関心をもつ。</p> <p>○伝統工芸品のよさを伝えるリーフレットを作る学習の見通しをもつ。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p> <p>他者の考えからヒントを得ることができるようにするために、タブレット端末等を活用して考えを交流する場を設定する。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p> <p>学習を振り返りやすくし、学習への達成感の充実を図るために、具体的なめあてを提示し、学習のゴールを明確にする。</p>	<p>【知】② (行動観察・音読)</p> <p>【主】① (行動観察・発言)</p>
2 6	読む・書く	<p>○文章をまとまりに分け、筆者の伝えたいことを捉える。</p> <p>○中心となる語や文を見付け、要約する。</p> <p>○筆者の考えについて考えたことをまとめる。</p> <p>○要約した文章を紹介しながら、考えたことを伝え合う。</p> <p>○工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に伝える。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p>	<p>【知】① (発言・話し合い活動)</p> <p>【思】②(ワークシート)</p>
7 11 (本時)	書く	<p>○「工芸品のみりよくを伝えよう」の学習課題、学習の流れを確かめる。</p> <p>○紹介したい工芸品を一つ選び、詳しく調べる。</p> <p>○調べて分かったことをイメージマップで整理する。</p> <p>○リーフレット作成で使う写真を選ぶ。</p> <p>○レイアウトを工夫し、組み立てと資料の使い方を考える。</p> <p>○考えた組み立てに沿って文章を書き、リーフレットを完成させる。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】</p> <p>児童が学習のめあてを自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして多様な選択肢を用意する。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【知】①② (行動観察・記述)</p> <p>【思】① (記述)</p> <p>【主】①② (記述・発言)</p>
12	話す	<p>○完成したリーフレットを友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【主】① (発言・ノート)</p>

9 本時の指導（全 12 時間中の第 9 時）

(1) 目標

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、リーフレットに載せる文章の組み立てや資料を考え、書き表すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

	<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点 ★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>
<p>導入</p>	<p>○リーフレットの書き方について振り返る。</p> <p>○リーフレットの書き方のよさを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」には、選んだ工芸品の簡単な説明が書かれている。 ・「中」に書かれてある二つの魅力が、写真があることでより分かりやすい。 <p>○読み手に伝わるように、どのようなリーフレットをつくりたいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で分かりやすく要約できるようになりたい。 ・より伝わりやすいように、イラストや写真の貼り方を工夫したい。 	<p>※リーフレット作りを行うことを伝え、書き方を確認する。</p> <p>★多様な選択肢を用意し、児童が学習のめあてを自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして、どんなリーフレットを作りたいのか、対象者や内容を明確にする。 【指導の手だて（1）】</p>
<p>リーフレットの 2、3 ページ目に書く文章の組み立てや資料の使い方を考えよう。</p>		
<p>展開</p>	<p>○「初め」「中」「終わり」に書くことやどんな写真を使うか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」で簡単に説明したい。 ・写真は説明する文章の近くに書くことで分かりやすくなると思う。 <p>○考えた文章の組み立てや資料の使い方を、オクリンクプラスを使って共有し、説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を一枚増やして、もっと伝統工芸品が伝わるようにしたい。 <p>○友達の考えを参考に、組み立てや資料の使い方を考え、組み立てを完成させる。</p> <p>○文章で伝えたい内容を短い言葉で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉を使おうかな。 ・一つ目、二つ目という言葉を使って書きたい。 	<p>※何度も貼り直しができるよさから、付箋を使って組み立てをさせることで、友達の考えを参考にして再度組み立てを考えられるようにする。</p> <p>★友達の考えを参考に学習を深めることができるようにするために、途中で考えを共有する時間を設ける。 【指導の手だて（2）】</p> <p>※図を使って整理したことを参考に文章をつくらせる。</p> <p>◆自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、リーフレットに載せる文章の組み立てや資料を考え、書き表している。 【思】①（ワークシート）</p>
<p>振り返り</p>	<p>○本時の学習の振り返りをオクリンクプラスに入力する。</p> <p>○次時の学習を確認する。</p>	<p>※振り返りを入力した後に、友達の意見を参照し、学習を深める。</p> <p>★学習への達成感の充実を図るために、次時の学習を伝え、ゴールを明確にする。 【指導の手だて（3）】</p>

第5学年 教科「おおたの未来づくり」 学習指導案

日 時 令和7年10月30日5校時

13:30~14:15

対 象 第5学年2組 22名

指導者 教諭 福岡 悠花

1 単元名 「外国の方にとうめ茶を広める方法を考えよう」【A ものづくり】(35時間扱い)

2 単元目標

蒲南茶荘様や Becalm 様と連携し、東蒲オリジナルブレンド茶をつくる活動を通して、地域の社会や人々の「Well-being」につながる「ものづくり」に必要な知識・技能等を身に付け、試行錯誤して創り出し、発信する思考力、判断力、表現力等を高め、自他のよさやもち味を生かしながら主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養うようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の社会や人々の「Well-being」に向かって、どのようなものを創り出すかという構想が「ものづくり」のコンセプトであることを理解し、コンセプト設定に必要な知識・技能を身に付けている。 ②コンセプトに基づいて、オリジナルブレンド茶をデザインするために必要な知識・技能を身に付けている。 ③デザインしたものを具現化し、発信するために必要な知識・技能を身に付けている。	①「コンセプト」の意味理解に基づいて必要な情報や情報収集の方法を考え、情報を整理・分析して必要なキーワードを導き出し、試行錯誤して「コンセプト」を設定している。 ②コンセプトに合った特徴や効果等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点を踏まえて設計している。 ③様々な人からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、ものづくりや、資料作成、発表準備等に取り組み、具現化したものを相手意識に立って発信している。	①ものづくりのコンセプトを設定するために、様々な人との対話を大切に、すすんで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。 ②よりよいデザインにするために、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。 ③デザインしたものを具現化し、発信するために、すすんでアイデアを出し合い、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。
④ICTを活用した情報収集や資料の作成に関する知識・技能を身に付けている。	④効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	④モラルや相手意識をもってICTを活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」と定義し、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

(2) 授業パートナーとの連携

蒲南茶荘様や Becalm 様と連携し、「コンセプト」での講話、「コンセプト」、「デザイン」、「クリエイション」それぞれでのフィードバックを依頼する。蒲南茶荘様との連携を通して、児童が人との対話を大切に、自他のよさやもち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとする資質・能力の育成が期待できる。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い等」では、蒲南茶荘様との対話を通して、ものづくりのコンセプトを設定するために、すすんで情報を収集することを重点的に指導する。

「コンセプト」では、コンセプト設定に取り組ませることで、地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えることを重点的に指導する。

「デザイン」では、設計を考えさせることで、コンセプトに合った特徴や効果等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点をもって考えることを重点的に指導する。

「クリエイション」では、デザインしたものを具現化させることで、相手意識に立って発信することや、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとすることを重点的に指導する。

(4) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

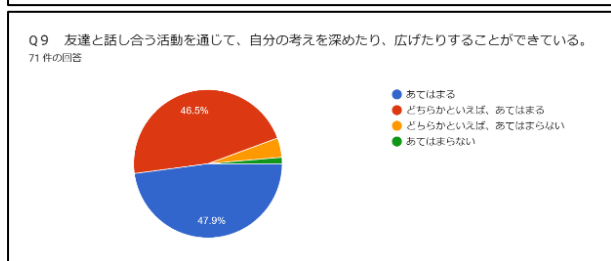
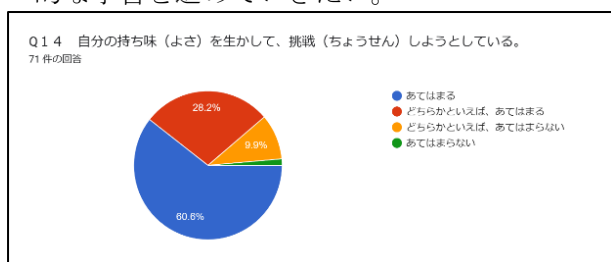
教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
総合的な学習の時間	SDGsについて学ぼう	15
国語	みんなが使いやすいデザイン	8
社会	わたしたちの生活と工業	5
図画工作	あったらいい町どんな町	2
家庭	いっしょに「ほっとタイム」	2
外国語	おすすめの場所を紹介しよう You can drink Japanese tea.	3

5 児童の実態

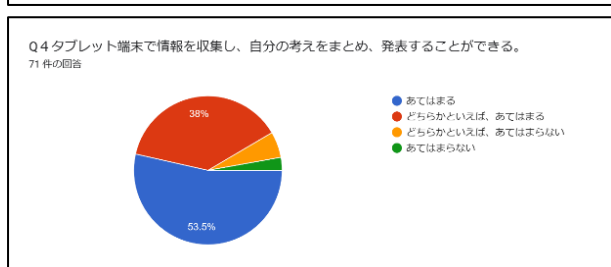
本学級の児童は、物事を決める際に、自分の考えを押し通すのではなく、他者の意見や状況を踏まえて、最善策は何かを考えることができる。道徳の授業では、意見が対立した場合に、相手の意見を否定するだけではなく、他の立場の意見も尊重して、両方の要望が通ったり、同じぐらい我慢したりする方法を考えることよさに気付くことができた。また、学級目標や宿泊学習の活動や班、お楽しみ会の内容など、児童が何かを決める場面では、目的や教員の意図を踏まえた上で、学級としてのよりよい意見をまとめようとする姿が見られる。学習との関連性や学級づくりの視点、人や場所等環境との関連、自身の経験、今でなくてはいけないのかなど、目を追うごとに、ただ「楽しいから」、「やりたいから」という意見ではなく、説得力のある意見が増えている状態である。

これらのことから、本学級の児童は相手意識や目的意識をもった上で、協働的に学習を進めようとする姿勢が見られていると考える。そのため、正解が一つではない、何通りもの答えや考え方の中からコンセプトに合ったデザインをし、さらにはクリエイションしていく必要がある本教科の学習においても、児童の豊かな発想の中から、コンセプトに合ったより良い方法や考えを選んだり、友達の考えを組み合わせる新たな考えを生み出したりする過程を大切に、自他のよさやもち味を生かした協働的な学習を進めていきたい。

全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分のもち味を生かして挑戦する」ことについて、約89%の児童ができていていると感じている。本単元では、探究課題を自分ごととして捉えることができるようにすることで、児童が自他のよさやもち味を生かせるようにする。



協働的な学びについて約94%の児童がよさを実感している。本単元では、意図的に協働的な学びを行い、既習内容を関連付けたり、相手意識をもって多角的に考えたり、児童が自他のよさやもち味を生かして協働的に考えることができるようにする。



タブレット端末の活用に関しては、約92%の児童が肯定的な回答をしている。本単元では、情報収集をはじめ、設計、振り返りなど、様々な場面でタブレット端末を活用することができる。他者と考えを共有する際にも、考えを広げるツールとして活用させたい。【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 研究主題に迫るための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

探究課題を自分ごととして捉えることができるようにするために、個やグループ、学級全体と学習形態を工夫するなど、意図的に協働的な学びを行う場面を設定する。そのようにすることで、既習内容を関連付けたり、相手意識に立って多角的に考えたり、児童が自他のよさやもち味を生かして協働的に考えることができるようにする。

(2) ICT等の活用

取組の内容や方法等を考え、必要な情報収集や設計を相手意識に立って発信することに役立てるために、主に「デザイン」の学習過程で、タブレット端末内のオクリンクプラスなどのアプリケーションを活用する。

(3) 振り返りの充実

自分のよさやもち味に気付くような振り返りにするために、授業パートナーや教員が児童のよい考えや行動を肯定的・前向きに価値付ける。

(4) 授業パートナーとの事前打合せ

授業パートナーと2回以上の打合せを行う。第1回は、電話にて挨拶を行う。管理職と担任から本単元の価値について説明することで、円滑な学習の実現を図る。第2回は、担任との対面で、学習の流れを説明することで、授業に参画してもらうタイミングや回数を伝え、見通しをもつことができるようにする。その後は、メールでのやりとりを必要に応じて適宜行うようにする。

7 指導計画

時	学習過程	◆評価規準 【観点】(方法)
1 ～ 10	<p>○主な学習活動 ★研究主題に迫るための指導の手だて</p> <p>○授業パートナーの講話を聞き、依頼を受ける。 ★授業パートナーとの事前打合せ【指導の手だて(4)】 児童が課題意識をもつことができるようにするために、授業パートナーの講話と、店舗見学、お茶を入れて飲む体験等を行う。 ○コンセプトを設定するために必要な情報の収集を行う。 ★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 コンセプト設定に必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けることができるようにするために、ブラウザ検索、スレッドでの情報共有、Formsを活用したアンケート調査など、必要に応じた調査を行う。 ○収集した情報を整理・分析してコンセプトを設定する。 ★地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えられるようにするために、思考ツール等を活用して協働的に考えるように指導する。 ○設定したコンセプトを授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 自分のよさやもち味に気付くような振り返りにするために、授業パートナーから助言や励ましを受け、必要に応じて再検討を行う。</p>	<p>◆【主】① (発言、行動観察)</p> <p>◆【知】① (発言、行動観察)</p> <p>◆【思】①(記述の内容、話し合い活動の観察)</p>
11 ～ 25 (本時)	<p>○取組の内容や方法等の企画案を考えるために必要な情報の収集を行う。 ★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 ○収集した情報を整理・分析して企画案(内容、方法、回数、時期、時間帯、場所、誰に協力を依頼するか、予算、準備期間、役割分担等)を決定する。 ★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 効果や実現可能性、持続可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって考察できるようにするために、思考ツール等を活用して協働的に考えるように指導する。 ○決定した企画案を授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>◆【知】② (発言、行動観察)</p> <p>◆【思】② (記述の内容、話し合い活動の観察)</p> <p>◆【主】② (発言、行動観察)</p>
26 ～ 35	<p>○設計を具現化し、授業パートナーに伝える。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 ○設計の内容のとおり、ブレンド茶のパッケージや広告を制作し、商品を実際に発信・販売する。 ★児童が自分のもち味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにするために、協働的な学びの場面を設定する。</p>	<p>◆【思】③ (記述の内容、話し合い活動の観察)</p> <p>◆【知】③ (発言、行動観察)</p> <p>◆【主】③ (発言、行動観察)</p>

8 本時の指導（全 35 時間中の第 17 時）

(1) 目標

販売促進を目的とした広告を考える活動を通して、コンセプトや、授業パートナーからの評価等を生かし、相手意識をもって試行錯誤することができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

	<p>○主な学習活動 ・予想される児童の反応</p>	<p>◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点 ★研究主題に迫るための指導の手だて</p>
<p>導入</p>	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○授業パートナーからのフィードバックを聞く。 ・もう少し～の方がよい。 ・～についての情報を加えてほしい。 ・～の部分はよい。要望どおりである。</p> <p>○本時の学習活動の流れを確認し、めあてを設定する。</p>	<p>※前時までの振り返りと本時の見通しをもつ時間を確保することで、活動までの流れを円滑にする。</p> <p>★自分のよさやもち味に気付かせるようにするために、教員以外の大人や、実社会で活躍している専門家に、自分たちの活動や作品について肯定的・前向きに価値付けてもらったり、助言をもらったりする場面を設定する。</p>
<p>展開</p>	<p>○オクリンクプラスを活用して、個別に改善案を考える。 ・～の文字を大きくする。 ・右下の部分に生産元についての情報を加える。 ・～色ではなく、～色に変える。 ・文章だけで説明するのではなく、資料も組み合わせる。</p> <p>○オクリンクプラスを活用して、部門ごとに担当者が集まって意見を出し合い、部門として考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①コンセプトに合っているか。 ②授業パートナーの意見を生かしているか。 ③相手意識をもっているか。 (外国の方を意識できているか)</p> </div> <p>・～の文字を大きくして、配置を変える。 ・右下の部分に●色で生産元についての情報を加える。 ・～色ではなく、～色に変える。 ・文章だけで説明するのではなく、写真やグラフなどの資料も組み合わせる。</p> <p>○学級全体で、それぞれの部門が、何をどのように改善する予定なのかを共有する。 ・授業パートナーから～というご意見をいただいたので、▲を■に変更することで、見た人が～になるように修正します。</p> <p>○改善案をもとに、各部門で広告の修正を行う。</p>	<p>★課題を自分ごととして捉えることができるようにするために、最初からグループで考えるのではなく、まず一人一人の考えを書くように指導する。【指導の手だて(1)】</p> <p>★話し合う前にポイントを確認することで、コンセプトを生かしたり、相手意識をもったり、授業パートナーから学んだことを生かしたりしながら話し合うことができるようにする。</p> <p>◆コンセプトや、授業パートナーからの評価等を生かし、相手意識をもって試行錯誤している。【思】③(記述の内容、話し合い活動の観察)</p> <p>※話し合いの進め方を提示することで、協働しながら粘り強く話し合うことができるようにする。</p> <p>※担当外の部門の発表に関しても、「仕事を分担しているだけであって、最終的な目的は全員が同じ」だということを伝え、他人ごとにならないようにする。</p> <p>★改善予定箇所を全体に周知することができるようにするために、電子黒板に広告を映しながら共有する。</p> <p>★相手意識をもって設計を行うことができるようにするために、児童用タブレット端末内のアプリケーションを活用する。 【指導の手だて(2)】</p>
<p>振り返り</p>	<p>○オクリンクプラスを活用し、めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返る。</p>	<p>★よりよいクリエイションの在り方を共有化できるようにするために、グループの話し合いの進め方や相手意識に基づいた記述を取り上げる。 【指導の手だて(3)】</p> <p>※次時は改善案を基に、各グループで広告の修正を行うことを伝え、見通しをもたせる。</p>

第6学年 教科「おおたの未来づくり」 学習指導案

日 時 令和7年10月30日 5校時

13:30~14:15

対 象 第6学年1組 31名

指導者 主任教諭 安江 航平

1 単元名 「今によみがえる大森麦わら細工～復活と創造～」【B 地域の創生】(35時間扱い)

2 単元目標

地域の「大森麦わら細工の会」や大田区立郷土博物館と連携し、大田区の伝統工芸である大森麦わら細工を継承、発信する活動を通して、地域の人々に受け入れられるコンセプト設定や企画、発信を行うために必要な知識・技能等を身に付け、収集した情報やアイデア、視点をもって整理・分析する思考力、判断力、表現力等を高め、もち味を生かして協働しながら粘り強く取り組む力を育むようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①新たな取組で目指す未来の地域の構想がコンセプトであることを理解し、コンセプト設定に必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けている。 ②コンセプトに基づいて、地域の人々に受け入れられる取組を企画するために必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けている。 ③企画を具現化し、発信するために必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けている。	①収集した情報やアイデアを整理・分析し、地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって、コンセプトを設定している。 ②収集した情報やアイデアを整理・分析し、効果や実現可能性、持続可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって、コンセプトに合った、取組の内容や方法等の企画案を考えている。 ③様々な人からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、企画の資料作成や提案・実践の準備等を行い、相手意識に立って発信している。	①地域の創生に向けた取組のコンセプトを設定するために、様々な人との対話を大切に、すすんで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。 ②コンセプトに合ったよりよい企画にするために、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。 ③企画を具現化し、発信するために、すすんでアイデアを出し合い、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。
④ICTを活用した情報収集や資料の作成に関する知識・技能を身に付けている。	④効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	④モラルや他者意識をもってICTを活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本単元を設定した。

(2) 授業パートナーとの連携

「大森麦わら細工の会」や大田区立郷土博物館と連携し、「コンセプト」での講話、「コンセプト」、「デザイン」、「クリエイション」それぞれでのフィードバックを依頼する。大森麦わら細工の歴史や、実際の制作方法を教えていただくことを通して、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとする資質・能力の育成が期待できる。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い等」では、「大森麦わら細工の会」や大田区立郷土博物館の学芸員の方との対話を通して、地域の創生に向けた取組のコンセプトを設定するために、すすんで情報を収集することを重点的に指導する。

「コンセプト」では、コンセプトの設定に取り組ませることで、地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えることを重点的に指導する。

「デザイン」では、取組の内容や方法等の企画案を考えさせることで、効果や実現可能性、持続可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって考えることを重点的に指導する。

「クリエイション」では、企画を具現化させることで、相手意識に立って発信することや、もち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとすることを重点的に指導する。

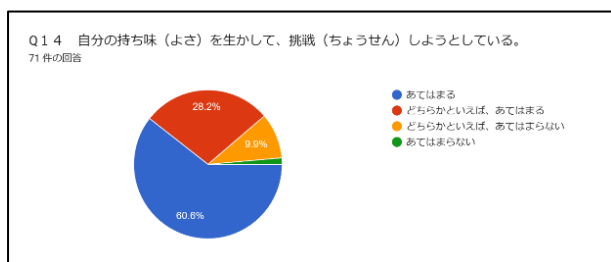
(4) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数 (35 時間)

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
総合的な学習の時間	プログラミングをしよう、SDGsについて学ぼう	15
国語	発見、日本文化のみりよく	8
社会	願いを実現する政治	5
図画工作	わたしの感じる和	2
家庭	共に生きる地域での生活	2
外国語	地域のことを伝えよう This is our town.	3

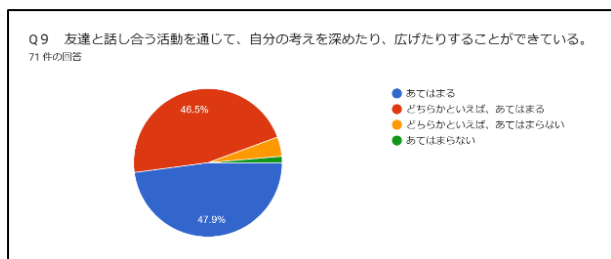
5 児童の実態

児童は前学年までに、地域の歴史や特色について学習してきたが、昭和を中心とした近代の地域の様子や特色が学習の中心で、ものづくりの町といった点に重点が置かれていた。今回、江戸時代にまでさかのぼって地域のことを学び、驚きと関心をもって取り組んでいる。

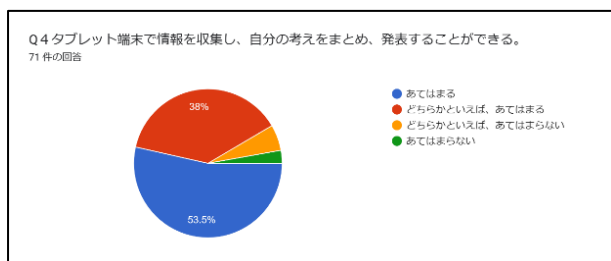
特に、梅屋敷や東海道にて土産物として大森麦わら細工が売られていたことや、葛飾北斎が下絵を描いたことなど、身近に大きな歴史が存在することを知り、大きな興味・関心を持ち始めた。大森麦わら細工を実際に制作することを通して、継承、発信の担い手となり、地域の活性化を図っていく。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分のもち味を生かして挑戦する」ことについて、約89%の児童ができていると感じている。学習課題を各自で設定させたり、学習形態を自己選択・自己決定させたりすることで、児童が自他のよさやもち味を更に生かせるようにする。



協働的な学びについて約94%の児童がよさを実感している。本単元では、意図的に協働的な学びを行うだけでなく、学習形態を自己選択・自己決定させることで、学習内容や目的に応じて自己調整しながら自分に合った学び方や、目的に合った学び方で学ぶことができるようにする。



タブレット端末の活用に関しては、約92%の児童が肯定的な回答をしている。本単元では、Google スライドと Google スプレッドシートを Google クラウドで共有することで、必要に応じて自由に他者参照できる環境を整えることで、考えを広げるツールとして活用させる。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 研究主題に迫るための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えられるようにするために、Google スライドや Google スプレッドシート、思考ツールなどを活用し、必要に応じて個別または協働的に考える場面を設定する。

(2) ICT等の活用

他者参照をしながら、コンセプトの設定やデザイン案の立案、クリエイション等に必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けることができるようにするために、ブラウザ検索、スライドでの情報共有、Forms を活用したアンケート調査など、必要に応じた情報収集や整理・分析、まとめ・

表現を行う場面を設定する。

(3) 振り返りの充実

児童が粘り強く取り組めるような振り返りにするために、授業パートナーから助言や励ましをもらい、必要に応じて再検討する場面を設定する。

(4) 授業パートナーとの事前打合せ

授業パートナーと2回以上の打合せを行う。第1回は、電話にて挨拶を行う。管理職と担任から本単元の価値について説明することで、円滑な学習の実現を図る。第2回は、担任との対面で、学習の流れを説明することで、授業に参画してもらうタイミングや回数を伝え、見通しをもつことができるようにするとともに、担任が実際に麦わら細工体験をさせていただいた。

7 指導計画

時	学習過程	○主な学習活動 ★研究主題に迫るための指導の手だて	◆評価規準 【観点】(方法)
1 ～ 12	コンセプト	<p>○授業パートナーの講話を聞き、依頼を受ける。 ★授業パートナーとの事前打合せ【指導の手だて(4)】 これまでに取り組んでいることや課題として感じていることを捉え、児童が課題意識をもつことができるようにするために、授業パートナーの講話を設定する。</p> <p>○コンセプトを設定するために必要な情報の収集を行う。 ★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 他者参照をしながら、コンセプト設定やデザイン案の立案、クリエーション等に必要な内容や方法に関する知識・技能を身に付けることができるようにするために、ブラウザ検索、スライドでの情報共有、Formsを活用したアンケート調査など、必要に応じた情報収集や整理・分析、まとめ・表現を行う場面を設定する。</p> <p>○収集した情報を整理・分析してコンセプトを設定する。 ★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 地域の社会や人々の「Well-being」という視点をもって考えられるようにするために、GoogleスライドやGoogleスプレッドシート、思考ツールなどを活用して、必要に応じて個別または協働的に考える場面を設定する。</p> <p>○設定したコンセプトを授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 児童が粘り強く取り組めるような振り返りにするために、授業パートナーから助言や励ましを受け、必要に応じて再検討を行う。</p>	<p>◆【主】① (ワークシート、メモ、観察)</p> <p>◆【知】① (スライド、行動観察)</p> <p>◆【思】① (スライド、話合いの観察)</p>
13 ～ 24 (本時)	デザイン	<p>○取組の内容や方法等の企画案を考えるために必要な情報の収集を行う。 ★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 ○収集した情報を整理・分析して企画案(内容、方法、回数、時期、時間帯、場所、誰に協力を依頼するか、予算、準備期間、役割分担等)を決定する。 ★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 ○決定した企画案を授業パートナーに伝え、フィードバックを受ける。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>◆【知】② (スライド、行動観察)</p> <p>◆【思】② (スライド、行動観察)</p> <p>◆【主】②(授業パートナーとのやりとり、再考の進め方等の観察)</p>
25 ～ 35	クリエーション	<p>○企画を具現化し、制作した大森麦わら細工を地域や区内各施設等に展示し、授業パートナーからフィードバックを受ける。 ★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 ○企画案の内容の通りに、実際に発信・行動する。</p>	<p>◆【思】③ (企画内容、ワークシート、行動観察)</p> <p>◆【知】③ (企画案、行動観察)</p> <p>◆【主】③(発表の仕方、行動観察)</p>

8 本時の指導（全 35 時間中の第 19 時）

(1) 目標

効果や実現可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって、授業パートナーから学んだことを生かしてデザイン案を考えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点 ★研究主題に迫るための指導の手だて
導 入	○本時のめあてを設定する。	
	自分のデザイン案をもっと詳しくしよう。	
	○本時の学習活動の流れを確認する。	★児童が学びを自己調整できるようにするために、各自の学習課題に応じて、学習形態（個別か協働か）を自己選択・自己決定する場面を設定する。 【指導の手だて(1)】
展 開	○前時までに Google スライドにまとめた自分のデザイン案が更に具体的で実現可能性のあるものになるように書き足す。	★必要に応じて他者参照をしながら学びを進めることができるようにするために、Google スライドと Google スプレッドシートを Google クラスルームで共有する。 【指導の手だて(2)】
	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージ性がもっと強くなるように、言葉の部分を考え直そう。 ・見てもらいたい人に伝わるように、展示場所をもっと絞り込もう。 ・これ以上思い付かないから、他者のスライドを見て参考にしよう。 ・他者がどう思うか、意見を訊いてみよう。 	<p>※「学習のポイント」を事前に確認することで、コンセプトに合致し、実現可能性があり、相手意識をもち、授業パートナーから学んだことを生かしたデザイン案を考えることができるようにする。</p> <p>※指導者はファシリテーターとなり、順調な児童や、停滞している児童の状況を共有したり、状況に応じてインターバルを設定したりすることで、児童の自立的な学びを促す。</p> <p>◆効果や実現可能性、コンセプトとの合致、相手意識等の視点をもって、授業パートナーから学んだことを生かしてデザイン案を考えている。 【思】②（スライド、観察）</p>
振 り 返 り	○Google スプレッドシートに、めあてを達成するために努力した点や工夫した点、次回に生かしたいことを振り返る。	★次時以降も自分ごととして学習を進めることができるようにするために、学習内容と学習方法に分けて振り返るように指導する。 【指導の手だて(3)】

第5学年 理科 学習指導案

日 時 令和7年10月30日 5校時

13:30~14:15

対 象 第5学年1組 22名

指導者 教諭 和田 光生

1 単元名 「電流が生み出す力」(11時間扱い)

2 単元目標

- 電流の流れるコイルは鉄心を磁化する働きがあり、その働きの大きさはコイルの巻き数や電流の大きさによって変化することや、コイルを流れる電流の向きによって電磁石の極の向きが変化することを理解する。 【知識及び技能】
- 電流の大きさや向き、コイルの巻き数などの条件を制御しながら、予想や仮説を基に解決の方法を発想して実験し、得られた結果を基に考察して表現する。 【思考力、判断力、表現力等】
- 電流がつくる磁力の大きさが変化する条件を、様々な条件を制御しながら調べ、他者と関わりながら問題解決に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

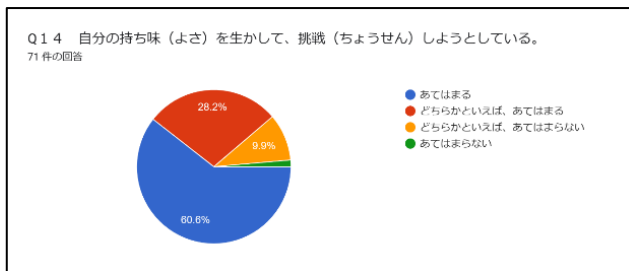
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①電流の流れているコイルは、鉄心を磁化する働きがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極も変わることを理解している。 ②電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻き数によって変わることを理解している。 ③電流がつくる磁力について、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①電流がつくる磁力について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②電流がつくる磁力について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	①問題の発見や解決に向かって、自分のモチ味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。 ②電流がつくる磁力についての事物・現象にすすんで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ③電流がつくる磁力について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

4 単元について

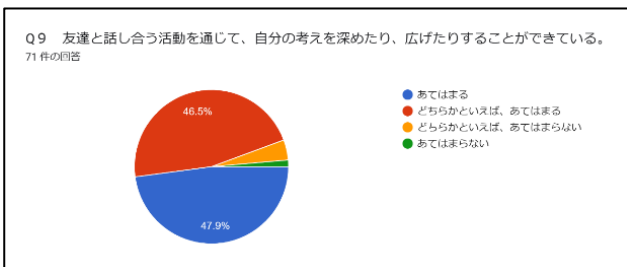
本単元は、学習指導要領解説理科編の内容A(3)「電流がつくる磁力」に基づいて、電流の大きさや向きに着目して、電磁石と磁石を比較しながら電磁石の性質を調べる活動を進める。また、本単元は第3学年「A(4)磁石の性質」、第4学年「A(3)電流の働き」の学習を踏まえ、コイルに電流を流すと磁石の性質をもつようになることを見いだせるように、電磁石が鉄クリップを引き付けたり、方位磁針の針の向きがN極から退きS極に引き合ったりすることを確認させる。また、磁石の周りには磁力が働く特別な空間である磁界が発生することを、鉄粉を用いて確認させ、電流を流したコイルの周りにも同じように磁界が発生することで、磁力をもつようになることなど、電流がつくる磁力について多面的に理解できるように指導する。

5 児童の実態

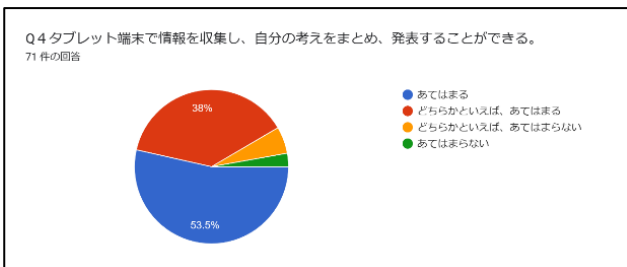
児童は第3学年で、磁石には鉄を引き付ける働きがあり、その働きはN極とS極で強くなり、方位磁針の針は棒磁石のN極から退き、S極に向かっていくことを学習している。また、第4学年では、回路の中には電流が流れており、電池を直列つなぎにすると流れる電流が大きくなることを学習している。電流の通り道である導線は既習単語であるが、導線を螺旋状に巻いたものをコイルと呼ぶことは本単元で初めて学ぶ。導線とコイルの違いや、磁石と電磁石の違いに混乱する児童がいるため、図などを用いて丁寧に説明し、既習事項と関連付けられるように指導する。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分の持ち味を生かして挑戦する」ことについて、約89%の児童ができていると感じている。教員による評価や児童の相互評価を通して学びを価値付け、児童の挑戦を支援していく。



協働的な学びについて約94%の児童がよさを実感している。本単元でも、児童が必要だと感じる場面において他者参照や話し合う活動ができる学習過程とすることで、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は約92%で、学年が上がるにつれて活用方法の習得と習熟ができていると感じている傾向が見られた。考えをまとめ、交流するツールとして活用させることで、限られた時間内で効率的な学びの実現を目指す。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 研究主題に迫るための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

全ての児童が活動への見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、児童が自分ごととして問題を捉えられるようにするために、導入を工夫する。

(2) ICT等の活用

児童が自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童にタブレット他端末で他者の考えを見せる場面を設定する。また、課題に難しさを感じている児童が取り組めるようにするために、他者の考えを参照できるようにする。

(3) 振り返りの充実

児童に学習への達成感をもたせ、学習について振り返ることができるようにするために、学習の見通しを明確にする。

7 指導計画

時	学習過程	<p>○主な学習活動</p> <p>★研究主題に迫るための指導の手だて</p>	<p>◆評価規準</p> <p>【観点】(方法)</p>
1 ～ 3 (本時)	磁石と電磁石の共通点を見付ける	<p>○磁石に触って、磁石の性質を学び直す。</p> <p>○電磁石を作って、電流を流している間だけ磁石の性質をもつことを学ぶ。</p> <p>○棒磁石と電流が流れているコイルの周りに磁界ができることを実験で確かめ、磁石のはたらきをもつものの周りには磁界が生まれることを学ぶ。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 全ての児童が活動の見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。また、児童が自分ごととして問題を捉えられるようにするために、導入を工夫する。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 児童が自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童にタブレット端末で他者の考えを見せる。また、課題に難しさを感じている児童が取り組めるようにするために、他者の考えを参照できるようにする。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 児童に学習への達成感をもたせ、学習について振り返ることができるようにするために、学習の見通しを明確にする。</p>	<p>【知】①③ (記述)</p> <p>【思】② (記述)</p> <p>【主】② (行動観察)</p>
4 ～ 8	電磁石の性質を調べる	<p>○電磁石で魚釣りゲームをして、電磁石の周りの磁界が生み出す磁力によって、鉄を引き付けることを学ぶ。</p> <p>○もっと大きな魚(大きなクリップ)を釣り上げるために、どのように電磁石の働きを大きくできるかを考える。</p> <p>○導線の巻き数を変えずに、電池の数を増やして直列つなぎにしたときの電磁石の働きの大きさを調べる。</p> <p>○電池の数を変えずに、導線の巻き数を変えたときの電磁石の働きの大きさを調べる。</p> <p>○電磁石の性質をまとめる。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【主】①② (ノートの内容、話し合う活動の観察)</p> <p>【知】② (記述)</p> <p>【思】①② (記述)</p>
9 ～ 11	学びを生かす	<p>○電磁石を利用したものづくりを計画する。</p> <p>○計画に沿ってものをつくる。</p> <p>○つくったものの振り返りと相互評価をする。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【主】③ (計画書、振り返りシート)</p>

8 本時の指導（全 11 時間中の第 3 時）

(1) 目標

棒磁石と電磁石の周りに鉄粉の同じ模様が発生することから、棒磁石と電磁石は同じ性質をもつことを理解することができる。 【知識及び技能】

(2) 展開

	<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点</p> <p>★研究主題に迫るための指導の手だて</p>
導入	<p>○磁石と電磁石の共通点を確認し、問題に対する答えを予想し、ノートに書く。</p>	<p>※「とうめちゃん」(本校のキャラクター) がスライド上で問い掛ける形で進める。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>棒磁石や電流が流れているコイルと、流れていないコイルにはどのような違いがあるのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・中身が違う。 ・金属でできているものが磁石の力をもつ。 	<p>★全ての児童が活動の見通しをもって課題に取り組めるようにするために、学習の手順や流れを視覚化する。</p> <p style="text-align: right;">【指導の手だて (1)】</p>
展開	<p>○棒磁石のまわりに鉄粉をふりかけ、磁界の模様を観察し、ノートに記録する。</p> <p>○磁界は磁石の力が働く空間であることを学ぶ。</p> <p>○①磁石の力をもたない鉛筆と②電流を流す前のコイル、③磁石の力をもつようになる電流を流したコイルの周りに鉄粉をふりまいたときにできる模様を予想して、オクリンクプラスのカードに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①の鉛筆の周りに磁界はできない。 ・②のコイルの周りにも磁界はできない。 ・③のコイルの周りには棒磁石と同じような磁界ができる。 <p>○①～③の順番で鉄粉をふりかけ、磁界の模様を観察し、ノートに記入する。</p> <p>○結果を確認する。</p> <p>○片付けをする。</p>	<p>※磁石の周りには鉄を引き寄せる特別な空間が広がっており、鉄粉をまけばその模様を調べられることを押さえる。</p> <p>※棒磁石の周りの磁界の写真を提示することで、観察対象を明確にさせる。</p> <p>★児童が自分の考えと比較したり、共通点や相違点を見いだしたりできるようにするために、早く課題を終えた児童に他者の考えを見る場面を設定する。 【指導の手だて (2)】</p> <p>★児童に学習への達成感をもたせ、学習について振り返ることができるようにするために、学習の見通しを明確にする。</p> <p style="text-align: right;">【指導の手だて (3)】</p>
振り返り	<p>○学習を終えて、問題に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒磁石や電流が流れているコイルと、流れていないコイルの違いは、その周りに磁界が発生しているかどうかである。 ・磁界が発生するものは、磁石の力をもつ。 <p>○次時の学習の確認をする。</p>	<p>◆棒磁石と電磁石の周りに鉄粉の同じ模様が発生することから、棒磁石と電磁石は同じ性質をもつことを理解している。</p> <p style="text-align: right;">【知】③ (ノートの内容)</p> <p>※数人の児童の回答を紹介することで、学びを深めることができるようにする。</p>

第4学年 図画工作科 学習指導案

日 時 令和7年10月30日 5校時

13:30~14:15

対 象 第4学年1組 20名

指導者 教諭 黒川 明花

1 題材名 「小っちゃい 美術館」(8時間扱い)

2 題材目標

- 3Dプリンタのプログラミングソフトである「作ってみよう」の操作方法を理解し、表したいことに合わせて、図形同士を引いたり組み合わせたりしながら工夫して表す。また、つくりたいものに合わせて、材料・用具を適切に選んで制作する。 【知識及び技能】
- 図形から図形を引いたり、図形同士を組み合わせたりしてできた新しい形から、つくりたいものを思い浮かべ、どのように表すか考える。また、手でつくったもの、プログラミングでつくったものの違いやそれぞれのよさについて考える。 【思考力、判断力、表現力等】
- タブレット端末を活用し、試行錯誤しながら新しい形をつくる学習活動にすすんで取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①図形から図形を引いたり、図形同士を組み合わせたりすることで、形の特徴が変わるということに気付いている。 ②「作ってみよう」の操作方法を理解し、表したいものをつくることができる。 ③つくりたいものに合わせて、材料・用具を適切に選んでいる。	①図形から図形を引いたり、図形同士を組み合わせたりしてできた新しい形から、つくりたいものを思い付き、どのように表すか考えている。 ②手でつくったもの、プログラミングでつくったものの違いやそれぞれのよさを見付け、どのような美術館を表すか考えている。	①問題の発見や解決に向かって、自分のモチ味を生かして挑戦し、主体的に取り組もうとしている。 ②タブレット端末を活用し、何度もつくり変えながら新しい形をつくる学習活動にすすんで取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 指導内容

本題材は、学習指導要領解説図画工作編の内容（A表現イ）に基づいて、造形的な視点の一つである「形」に着目した内容である。形の特徴を捉えたり、自分のイメージをもったり、意味や価値をつくり出したりしながら、表現の学習活動を進める。

本題材は、作品内の一部分を、3Dプリンタを活用して制作する。手でつくるのとは違い、コンピューター上でプログラミングをしながら活動していくこととなる。手や体全体の感覚を通して行う造形活動に比べると、自分の感覚や行為から得られる学びは少なくなるが、これからの時代において、プログラミングを通して試行錯誤しながら創造していくことも必要な力となると考える。3Dプリンタは、自分のイメージどおりの形をそのまま表出することができる。また、つくったりつ

くり変えたりすることも容易であり、一つデータをつくってしまえば何度も印刷することが可能である。手で作るよさ、プログラミングで作るよさを、それぞれの特徴と共に児童が自分で感じ、選択しながら活動ができるよう指導する。

制作のテーマは、題材名の通り「美術館」である。自分が館長になったつもりで、どんな美術館にするのかを考え、そこに飾る作品も自分で制作する。15cm×15cmのスチレンボードを3枚合わせて室内に見立て、床の中心に置く立体物や、壁に飾る小さい絵画などを展覧会に向けて制作する。

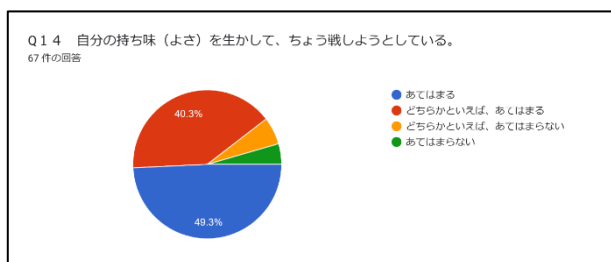
(2) 創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する題材として設定した理由

地域や家庭の人々との交流を通して、自ら考え、判断し、行動できる力を高めてほしいという保護者の願いや、笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育ててほしいという地域社会の要請を踏まえ、本校では、育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」とし、児童がもち味を生かして挑戦できる学習として本題材を設定した。

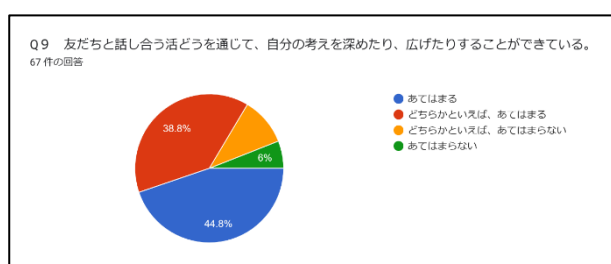
5 児童の実態

本学級の児童は、昨年度から指導している。意欲的に制作に取り組む児童が多く、中でも特に粘土を使う題材が好きである。自分の好きな形をつくれるからという理由が大きく、形を造形的な特徴で見る視点は豊かに育っていると感じる。一方、自分で一から新しいものを想像することに関しては、手が止まってしまう場面も多い。そのため、本題材では「作ってみよう」ソフト内の図形を組み合わせて制作する内容にし、どの児童も困り感なく取り組めるようにしたい。

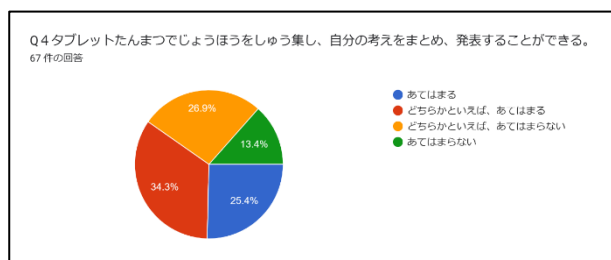
昨年度はタブレット端末を用いて4コマ漫画の制作を行ったが、プログラミングでの制作は本題材が初めてである。プログラミングの過程において、図形を移動させるときに「マイナス（負の数）」の表記が出てくるため、未習内容ではあるが段階を踏んで説明していく。



全校で重点的に育成を図る創造的な資質・能力の素地である「自分のもち味を生かして挑戦する」ことについて、約89%の児童ができていていると感じている。児童にとって新たな挑戦であるプログラミングでの制作に前向きに取り組めるように支援していく。



協働的な学びについて約83%の児童がよさを実感している。制作進度が異なる児童が混在する中で、教員がファシリテーターとなり、友達の発想を参考にできるようにすることで、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図る。



タブレット端末を活用できていると感じている児童は、約59%にとどまっている。学習を振り返る時間に、他者参照ができるようにICTを活用することに加え、プログラミングでの制作をすることで、情報技術の活用の幅を更に広げられるようにする。

【児童アンケート調査 令和7年7月実施】

6 創造的な資質・能力の素地を育成する視点

図形と図形を組み合わせ、新たな形を思い付く学習を通して、問題の発見や解決に向かって、自分や他者のよさを生かして協働しながら、主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

7 創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて

(1) 個別最適な学びと協働的な学び

児童が活動内容を自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして多様な選択肢を用意する。

(2) ICT等の活用

児童の表現の幅を広げられるようにするために、3Dプリンタを活用する。また、他の児童の制作過程を他者参照できるようにするために、振り返りにタブレット端末を活用する。

(3) 振り返りの充実

自分のよさやもち味に気付かせるような振り返りにするために、児童のよい考えや行動を教員が肯定的、前向きに価値付ける。

8 指導計画

時	学習過程	◆評価規準 【観点】(方法)
1 ～ 7 (本時)	<p>○主な学習活動</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p> <p>○3Dプリンタの使い方を知る。</p> <p>○図形と図形を組み合わせることができる、新たな形を考える。</p> <p>○自分のイメージに合うよう用具や素材を選択し、美術館のテーマや内装を工夫する。</p> <p>★個別最適な学びと協働的な学び【指導の手だて(1)】 児童が活動内容を自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして多様な選択肢を用意する。</p> <p>★ICT等の活用【指導の手だて(2)】 児童の活動の幅を広げられるようにするために、3Dプリンタの活用を併用する。また、他の児童の制作過程を他者参照できるようにするために、振り返りにタブレット端末を活用する。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】 自分のよさやもち味に気付かせるような振り返りにするために、児童のよい考えや行動を教員が肯定的、前向きに価値付ける。</p>	<p>【知】②③ (活動の様子)</p> <p>【思】① (振り返り、作品)</p> <p>【主】①② (発言、活動の様子)</p>
8	<p>○自分や友達の作品を鑑賞し、よさや美しさを味わう。</p> <p>★振り返りの充実【指導の手だて(3)】</p>	<p>【知】① (作品)</p> <p>【思】② (発言、鑑賞カード、作品)</p> <p>【主】② (作品)</p>

9 本時の指導（全8時間中の第5時）

(1) 目標

どのようなテーマの「美術館」にするかを考え、材料・用具を工夫して表すことができる。

【知識及び技能】

(2) 展開

	<p>○主な学習活動</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>◆評価規準【観点】(方法) ※指導上の留意点</p> <p>★創造的な資質・能力の素地を育成するための指導の手だて</p>
導入	<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <p>○本時の活動内容を知る。</p> <p>・壁面、床面を装飾する。</p> <p>・オブジェに彩色する。</p> <p>○本時の学習内容を知る。</p>	<p>※材料や用具の使い方を再度確認する。</p> <p>【使用するもの】「つくってみよう」ソフト、3Dプリンタ、スチレンボード、絵の具、画用紙など</p>
<p>何の材料・用具を使うか考えながら、「美術館」オープンに向けて準備していこう！</p>		
展開	<p>○中心に置くオブジェの制作を「作ってみよう」でプログラミングする。</p> <p>○3Dプリンタで出来上がったオブジェに着色する。</p> <p>○壁面、床面を装飾する。</p> <p>・壁面に絵を飾りたいな。</p> <p>・額縁や台座も3Dプリンタでつくれるかもしれない。</p> <p>・オブジェや床を絵の具で塗ろう。</p> <p>・美術館のテーマはどうしようかな。</p> <p>○3Dプリンタで出来上がったものを確認する。(前回データを提出した児童のみ)</p> <p>・もう少し大きいほうがいいな。</p> <p>・イメージどおりに形になったよ。</p> <p>・触り心地はつるつるだ。</p> <p>・何色に塗ろうかな。</p>	<p>※制作は複線型授業で進める。</p> <p>※児童の制作時間が多くなるよう、展開の時間を確保する。</p> <p>※絵の具や材料を、空いている机の上に準備しておく。</p> <p>★児童が活動内容を自己選択・自己決定できるようにするために、教員がファシリテーターとして多様な選択肢を用意する。 【指導の手だて(1)】</p> <p>※「作ってみよう」ソフトの操作方法、注意点、データの保存と格納場所を黒板に示しておく。</p> <p>※今回データができた人は、印刷は次時になることを伝える。</p> <p>★児童の活動の幅を広げられるようにするために、3Dプリンタの活用を併用する。【指導の手だて(2)】</p> <p>★自分のよさやもち味に気付くような振り返りにするために、児童のよい考えや行動を教員が肯定的、前向きに価値付ける。 【指導の手だて(3)】</p> <p>◆どのような美術館にするかを考え、完成までの見通しをもちながら、材料・用具を自分の制作に合わせて工夫して表している。 【知】③(活動の様子、作品)</p>
振り返り	<p>○片付けをする。</p> <p>○本時ではどんな活動をしたか、次時は何をしたいかななどをオクリンクプラスに記述する。</p> <p>○次時の学習の確認をする。</p>	<p>※「作ってみよう」のデータが途中の児童には、一時保存することを伝える。</p> <p>※次時も、引き続き制作することを伝える。</p> <p>※各自で入力した後は、友達の振り返りを読ませたり、教員が数人の児童の振り返りを全体で共有したりすることで、学びを深めることができるようにする。</p> <p>★他の児童の制作過程を他者参照できるようにするために、振り返りにタブレット端末を活用する。 【指導の手だて(2)】</p>